

楽天グループが 23/12 期決算を公表ーモバイル事業が一定の進捗、黒字化に向けた取組みに注目

以下は、楽天グループ株式会社（証券コード：4755）の 23/12 期決算についての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 24 年 2 月 14 日に当社は 23/12 期決算を公表した。営業利益は 2,129 億円の赤字（前期比 1,588 億円の赤字額減少）、最終利益は 3,395 億円の赤字（同 377 億円の赤字額減少）となった。依然としてモバイル事業が負担となっている。ただし、四半期ベースでは、連結 Non-GAAP EBITDA や連結 Non-GAAP 営業利益の改善は進んでおり、23 年 12 月の連結 Non-GAAP 営業利益はようやく単月黒字を達成した。24/12 期の会社計画では、通期連結 Non-GAAP 営業利益を黒字化するとしている。
- (2) モバイル事業では、契約回線数が 609 万件（23 年 12 月末）となり、足元の獲得は回復傾向を示している。新ローミング契約に基づくネットワークの最適化が効果を発揮し始め、通信品質の改善が徐々に進んでいる模様。様々な営業強化策も打ち出しており、24 年 12 月には契約回線数を 800～1,000 万件にするとしている。業界内での獲得競争は激しく、楽観できる状況にはないが、従来に比べ当社の競争力は改善の兆しが見え始めていると JCR では判断している。
- (3) 財務面では、多額の赤字が負担となってきた。一方で資本性調達や事業売却を順次実施し、相応の手当ては行ってきた。また、24/12 期、25/12 期と多額の社債償還が到来することが懸念材料となってきたが、24/12 期分については先般の外債発行等によって手当てがされている。
- (4) JCR では、23 年 6 月に格付を 1 ノッチ引下げ A-とし、見通しについてはネガティブとしている。足元、モバイルの黒字化に向けた進捗や連結損益での改善傾向が認められるものの、依然として見通しのネガティブを見直すようなレベルではないと判断している。モバイル事業の黒字化に向けたさらなる取組みを注視していく。

（担当）千種 裕之・本西 明久

【参考】

発行体：楽天グループ株式会社

長期発行体格付：A-

見通し：ネガティブ

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等することは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル